小中学校太陽光発電施設設置工事の安全性は

問　小中学校太陽光発電施設設置工事の安全性確保に対する認識は。

答　当初提案された製品の地震や風に対する安全性について、請負業者みずからが疑問を呈したことから、安全性に対する検討を請負業者と時間をかけて行ってきた。その結果、地震に対しては、屋上への落下防止さくの整備を、また、風に対しては、床面に固定しない方法による浮き上がり防止対策を請負業者の責任をもって追加することにより、市としても安全が確保できると判断した。なお、請負業者には、安全性を検証した結果を、口頭での報告だけでなく、正式な文書として提出するよう指示しているところである。

▲先行して設置された開北小学校の太陽光発電施設

小中学校太陽光発電施設の経済性と効果は

問　小中学校に設置が予定されている太陽光発電施設の経済性と効果は。

答　先行して太陽光発電施設を設置した開北小学校においては、平成二十一年度実績で、電気使用量が十一万四千五百三十二キロワットアワー、電気代は二百四十一万四千二百十九円であったが、十七・四七キロワットの発電施設を設置することにより、年間約一万九千三百キロワットアワーが発電され、約十六・九％の電気量の削減効果が見込まれる。このほか、削減される二酸化炭素の排出量をリアルタイムで表示するなど、生きた教材として利用し、施設設置の主な目的である児童・生徒の環境教育を推進する効果があると認識している。

市立高校長公募制の効果と今後の方針は

問　市立高校長公募制導入の効果と今後の方針は。

答　市立高校長公募制は、校長として組織マネジメント能力やリーダーシップ、柔軟な発想力と調整力を有するとともに、教育に関する識見と情熱を持った人材を採用することを目的としている。この制度によって採用した民間人校長は、高校時代をよき社会人になるための極めて重要な人生の節目ととらえ、中高の枠を超えて人を育てる情熱を持ってその職に当たっている。また、教職員の意識改革を推進し、総合的なマネジメント能力を発揮している。さらに、学習の動機づけとなる生徒の体験活動やキャリア教育を重視し、斬新な発想で教育課程及び学級編成の工夫をしてきた。その結果として、二期生まで卒業し、中高一貫教育の卒業生の進路においても、目指す大学への進学者の増加及び希望する職業への就職等、着実に夢実現に向けた実績を上げている。また、部活動においても、全国大会等で優秀な成績をおさめるなど、校長公募制は十分な効果を上げていると評価している。今後の方針としては、中高一貫教育は、六年間を通して行うものであるため、他の高校へ転出した生徒の状況等も踏まえつつ、校長を中心に学級編成や教育課程を工夫し、魅力ある高校づくりを目指していきたい。今後も、校長公募制も含めて、これからの市立高のあり方を検証しつつ、検討していきたいと考えている。

▲校長公募制を導入している市立高